



古今集巻二

二

特別  
イ 4  
3163  
95(2)



貴  
14  
3163  
95(2)



古今和歌集卷第三之巻後

夏哥

歌一らげ

よみ人さうらむ

永るぞの池乃縁水も咲ふるを心ほそぎぬいつきぬを

○コチノ池ノ邊ナ故ノ花ガ咲タワイ 敦云ハイツキテナクデアラム

此うらう人のいさかきぬの人のよろがし

うづきふさうの縁をさすよめる

紀一らげ

ありてよこし波あふふやらどそやまふおらしてむそりほらせ

○今月ニナツテ構むノアルハメツラレイヲチヤ 己ハナニテモ 見ル人がアハレ



見ゴトナアハレ見するナト云、ち何ヲ 方ノ橋へかテヤルイ 己ヒト  
リガサウ云、レウト也テ ワザト喜ヨリ後ニオソウヒトリ 嗟々デアラ  
ウカ ○千秋云、結句、い、は、く、を  
か、う、し、し、よ、み、く、を、り

歌うらび

よみ人さうび

さつきやうの 歌うらび 今もなうねむらぎ ねむらぎ

○歌うらび五月ヲ待テ鳴チヤガ 一ダモ五月ニナラ子氏 去年ノ秋リノフルコエラ  
出シテ ドウゾ今モナケカシ ○千秋云、うら、ち、あ、き、は、る、は、あ、打、羽、振、と、ち、て、羽、を  
ぬ、と、云、は、譯、を、き、は、た、う、き、う、ら、し、き、な、る、べ、し。

伊勢

五月こばねきとぬりぬき 歌うらび 今もなうねむらぎ ねむらぎ

○時うらび五月ニナツタナラバ モウは、心ニナツテメヅラレウナイデモアラウ ドウゾ

一ダモ時節ニナラヌウチノ声ヲツクイモノヂヤ

よみびとさうび

さつきやうの 歌うらび 今もなうねむらぎ ねむらぎ

○五月ニサク橋ノ心ニホヒラカケバ 一ハカタノナジミノ人ノ袖ノ香ガサスル

ソノ乃よりあつきうねむらぎ ねむらぎ 今もなうねむらぎ ねむらぎ

○イツノ、ニ五月ニナツタヤラ ヒゴロニ待タ時うらび 今始テサナクワアレ

うさきねきいづが 旅あるほろぎい 花しからばさふやどハかゝねむらぎ

○ケサ始テ本テ一ダエ住ツカニ旅ガケテ居テ鳴時うらび 定メテ宿ヲトル  
デアアラウガ コチノをナ橋ニ宿ヲバカレカシ ソシタラあかニツウニ

あつはあをさうらる時うらび 時うらび ねむらぎ ねむらぎ

○き後二

○二



郭ろねくゝ急まきむじふまおーぬふまぞ急ーかりうほ  
○ホトノギスノナク声ヲキケバ 感情ガオコツテ ハナレキタニカタノ在  
ノろーデガサナツカシウ馬ハレルワイ

ほろぎよとねがたぐく星ねあやうらむばねわうまされぬありありのう  
○おもヨ ソチハ ナク里ガアソコニモコニモアタアツテ コバカリテ唱ヌニヨ  
ツテ 賞<sup>五</sup>致ニ思ヒハスレドモ ソレ<sup>四</sup>デモウトくシウ馬ハレル

ありしいづゝそれもの心乃時をかくくさあめおあり出てぞねく  
○急<sup>一</sup>イ人ヲ思ヒタシメ時ニハ の心の 三 四 声ヲアゲテサワシヤナクワイノ  
四の心くぬり出の序のミおして急ニおおのゆり出つねくとつるとハ異  
あるよそ此おハカをくゝ急のちねと急うお入るハいふおや。

急ろくし急を思しぬほろじを急衣もね急<sup>一</sup>川をかくねき

○おもハ ナク声ハシテ 急ハ急エヌガ 急ガナクバ オレガ袖ガヒツタリトヌレ  
テアルヲ借<sup>レ</sup>テヤラウホドニ コレソチガ泣<sup>レ</sup>急ニカツタガヨイ  
何<sup>一</sup>急<sup>二</sup>きね心郭<sup>三</sup>ををりをへー<sup>四</sup>急<sup>五</sup>まきまきと福をのぞねく

○オレハイツユク泣テバツカリ居ルガ アノおもモオニナシヤウニ 間<sup>一</sup>モナシニ  
鳴テ オレト 誰<sup>レ</sup>ガ勝<sup>カ</sup>ツサアナキクスラセウトテ ヒタスラナクワイ  
をりをへる時<sup>一</sup>延<sup>二</sup>あして時<sup>三</sup>長くはぐく急<sup>四</sup>おねじまを  
へて急<sup>一</sup>ま時<sup>二</sup>長くはぐく急<sup>三</sup>おねじまを

今<sup>一</sup>はくふへうつ那<sup>二</sup>わろぎん急<sup>三</sup>おねじまを  
○山カラ出テキテモウ里ナレタフヂヤニ 今サラ山へハカヘルナヨおも

声ノアリタケハヒミイマデ コチノをデナケ

みくらのまらち

やよやよと山新ふあつとひり続き中にとまみぶねとよ

○山へカハル時ち ヤイノウ チヨット待テタモ コトツテラセウ ワレハモウ世ノ

中ニ住アグニダワイノ ソレデ追ッ付ワレモ山へコモラウト思フホドニ サウ云テタモ

定まらぬ時きまらぬのまらぬ 夜合乃う

紀友則

はらばらぬおもしろきとばは時ち 春はくつてつづらゆくらひ

○お月ぬがフリツイテイヨク夜モモヤクヤト物思ヒラシテ居レバ 時ちが唱テ

イクガ 夜モフケタニ ドチヘイクヤラ オレモハヤウバドチナリヒイキタイ

夜やららぬきこやほとへる 郭ム 家をききしもさかてりお

○夜デクライニヨツテドチモエイカヌカ 又ハ道ニヨウタノカ 郭公ガ あも 死モ

多イニ コチノをデバツカリ ドウモコテイナレヌヤウニチツト唱テキル

大いし里

やどらせし 家櫓もかきおろしおれや 時ちをさしきしゆえぬとひ

○宿カツテ居タ櫓モニカモセヌニ 時ちハナセニヨソヘニテ声モセヌヤウニナツタヤラ

きのほろゆふ

まけおれ乃ゆきととまれば 時ちをゆきととまけりあらしのゆめ

○子ルカト思ハ 時ちノナイタ一声デ ハヤモウ明ガタニナツタ サテく短イ夜

カナ ト句ヌハ 郭云ノナイタ一声デ 目ガサメタガ ハヤモウ夜ガアケル





ほろぎもをききとゆいじふ山彦ハほろふ唱き流るるやハせぬ

○歌云ガナクカクトトテ声モゆエガ ヨソテ唱き多ナリコヘヒビ

イテヤエバヨイニ コタマ山彦ハナセニコヘヒビカサヌゾイ

ふりやろぎもをききの唱き流るるやハせぬ

つゆに

郭云人ヤウハりねくまじバ流るるつぎふさやろりなる

○人があモセウカト待テ居ルけ松山ニアノヤウニ歌云ガナケバ 今マデハ

サホドニモ思ハナシガ ニカニコチモ人ヲ待ツ心ガサツタワイ

ハハカタなやろぎもをききとゆいじふ山彦ハほろふ唱き流るるやハせぬ

てよき歌

つゆに

じうへや今もあつた郭云ぬるはやふも唱てきつむ

○時ヨ ソチモオレト同シヤウニ昔ガ今デモ思ヒイカ 取モ多イニ付

本ノ在<sup>キ</sup>所へ唱テ事タノハ昔ガ思ヒイヤラ

○千秋云今もハナシもあつたやろぎもをききとゆいじふ山彦ハほろふ唱き流るるやハせぬ

時ヨの唱きとゆいじふ山彦ハほろふ唱き流るるやハせぬ

本ろぎもをききとゆいじふ山彦ハほろふ唱き流るるやハせぬ

○世中ヲウイ物ニ思テ泣テクラスモノハオレヤガ 時ヨハオレデハナシニドウイ

フコデ世中カウイト云テおむノアタリヘマテアヤウニオレト同シヤウニ唱テクラス

とらまはあをよそよめ 借山遍昭

とらまはあをよそよめ 借山遍昭

○蓮ハ世中ノ濁リニソノ又壁ニハ経ニトイテアルガ サウ云 法浄ナ心

デナゼニアヤウニ葉ノ家ヲ玉ト足セテ人ヲバダニスコトゾイ

月のおもろかりるよらうつきがふよえ家

ふりや婦

交れぬらまご音ねぐりぬめりてせむいづるふ日やぞろろすし

○ア、ヨイ月デアツタニ 交れぬ短イハ一ダヨヒニデ フケルモナニ

ハヤ明タモノ コノ短ノ短サデハ月ハ 西方ノ山ニダイキツクハアルイカ

アノ曉ノ雲ノドコラニトミツタフヤラ

とわりよるこそねつのもささひふあせしうらねばきしそ

此の世よみてはうららき

ちるしはふと急じそが思ふ涙とどがゆる糸ねつ乃茶

○手あの上コナツハ カトワレガ二人寐ニス床ナソデ 太クノデコザル 危カサイ

テカラハ 塵サヘカケイトサぬズルホド太クノデコザル 折テハエニビニスマ

イ ○千秋云此の上句三一二と  
句を改めしと見え

みる月の影ぞりけりよめ

まゝ秋とゆきうらなれぬひぢハカクと急じきねやめくらじ

○今、曉クヒテユク交ト事ル秋トイキチガウネノ通りそハソノ交ノ急ツテ

ユク片一方ハダ暑ウテ 秋ノトホツテクル片一方ハ スレイ凡ガフクデアラ

ウカイ

古今和歌集巻之四 巻終

秋歌上

秋の川よめる

藤原敏成 和歌

あきくぬき冬ちちやふんふん風の音はぞあざうり続ぬる

○秋がキタトイフテソレトハツキリト目ニハスエヌケドケハ凡ノ音ガニハカニ

カハツタデサ コレハ秋がキタワトビツクリニタ

秋の川日へのさのさのさの川の流に川きりえうり

うららとふまかりてよめる 流るゆき

河風のさびしくもなるりうちよする浪とともや秋を立ちらむ

○川凡がサテモア涼しいツカナ 浪モ高ト云し秋ノ事ルノモ高トイ

へバ 此岸へウチヨセル浪トイツレヨニ秋ガタツタカシラヌ

類々

らみむくーふん

こがせまが衣乃とさび吹うへしうららとづしき秋のゆめ

○上 コレハくメツラシイ秋風チヤ サテモ涼しいコロロイ

飯村ふこがせまハガをうせりといハツキきむがてこころハ女

のちねづー又チ林良材集ふり進んふハ。うだもこがとる新

ち々集者あつちでふねむしあふさむもこが衣のさきふ秋

風をぬくさむくふふねむしあふさむもこが衣のさきふ秋

まのあさささぬきそりーうららつのもあいまをさうだて秋風はさく

○一々唯日コソハ田ヲウエタレ ソレニア イツクニヤウニ稻ノ葉ガソ

ヨクトシテ秋風ノフクヤウニハナツタフゾ

秋風、好吹おし日くらとむさか<sup>馬</sup>とれ天の川系にゆぬ日おし

○ワシハ秋風ノフキツメタ日カフシテ毎日くはヤウニハ天川ノ川系へ出

テ立テ君ヲマタ又日ハ一日モナイ  
。秋云ばあねどハるるむつめ  
はつてよまし七支のまけれまし。

むさか<sup>馬</sup>とれ天の川系にゆぬ日おし

○天川ノ渡し守ヨ 君ガコチスハ渡リナサツタナラ ぢキニま船ノ棹ヲシレ

ヌヤウニカクシテオイトクレイ ソシタラ川渡ッテハカリナサル<sup>ナ</sup>ガナルマイニ

ヨツテ イツ<sup>テ</sup>デモコチニハ逗留デアラウニ

天川もみぢ<sup>馬</sup>橋おし<sup>馬</sup>セツヤ<sup>馬</sup>しめむ<sup>馬</sup>つめの秋をいさ<sup>馬</sup>

○天川ノ橋ニお葉ヲはスユカシテ時<sup>五</sup>モ多イニ 榎機<sup>五</sup>松ガ秋ヲ待ナサル

あひくしてあよほらあひあはれ川 雲がまらるる<sup>馬</sup>つきのむあ<sup>馬</sup>

○一年ノアヒダ長ノ月日ヲあ<sup>馬</sup>とテ 夕ツタ<sup>馬</sup>一<sup>馬</sup>夜<sup>馬</sup>暮<sup>馬</sup>望<sup>馬</sup>ト 榎機<sup>馬</sup>トハ<sup>馬</sup>冬<sup>馬</sup>ナ

サル<sup>馬</sup>夜<sup>馬</sup>ハ<sup>馬</sup>コ<sup>馬</sup>ヨ<sup>馬</sup>ヒ<sup>馬</sup>チ<sup>馬</sup>ヤ ドウゾ天川へ雲ガ一<sup>馬</sup>メ<sup>馬</sup>ニ<sup>馬</sup>立<sup>馬</sup>テ 雲<sup>馬</sup>ウ<sup>馬</sup>ナ<sup>馬</sup>ツ<sup>馬</sup>テ<sup>馬</sup>イ<sup>馬</sup>ツ<sup>馬</sup>マ

デモ<sup>馬</sup>夜<sup>馬</sup>ガ<sup>馬</sup>ア<sup>馬</sup>チ<sup>馬</sup>子<sup>馬</sup>バ<sup>馬</sup>ヨ<sup>馬</sup>イ

定<sup>馬</sup>あ<sup>馬</sup>は<sup>馬</sup>時<sup>馬</sup>あ<sup>馬</sup>ぬ<sup>馬</sup>あ<sup>馬</sup>は<sup>馬</sup>よ<sup>馬</sup>う<sup>馬</sup>ふ<sup>馬</sup>さ<sup>馬</sup>か<sup>馬</sup>う<sup>馬</sup>ぬ<sup>馬</sup>さ<sup>馬</sup>の<sup>馬</sup>こ<sup>馬</sup>ど<sup>馬</sup>と<sup>馬</sup>あ<sup>馬</sup>な<sup>馬</sup>れ<sup>馬</sup>作<sup>馬</sup>せ

ら<sup>馬</sup>ま<sup>馬</sup>ら<sup>馬</sup>る<sup>馬</sup>時<sup>馬</sup>人<sup>馬</sup>よ<sup>馬</sup>う<sup>馬</sup>り<sup>馬</sup>そ<sup>馬</sup>よ<sup>馬</sup>あ<sup>馬</sup>る<sup>馬</sup> そ<sup>馬</sup>と<sup>馬</sup>の<sup>馬</sup>り

らぬのがは浅瀬あ<sup>馬</sup>ら<sup>馬</sup>ら<sup>馬</sup>ぬ<sup>馬</sup>も<sup>馬</sup>し<sup>馬</sup>め<sup>馬</sup>ぢ<sup>馬</sup>り<sup>馬</sup>つ<sup>馬</sup>は<sup>馬</sup>さ<sup>馬</sup>と<sup>馬</sup>て<sup>馬</sup>祿<sup>馬</sup>バ<sup>馬</sup>わ<sup>馬</sup>さ<sup>馬</sup>を<sup>馬</sup>あ<sup>馬</sup>ら<sup>馬</sup>る<sup>馬</sup>。

○は天川ノ浅瀬ノ和ヲシラヌ<sup>馬</sup>ニ<sup>馬</sup>オ<sup>馬</sup>ボ<sup>馬</sup>ツ<sup>馬</sup>カ<sup>馬</sup>ナ<sup>馬</sup>ウ<sup>馬</sup>テ 水<sup>馬</sup>チ<sup>馬</sup>カ<sup>馬</sup>ラ<sup>馬</sup>ア<sup>馬</sup>チ<sup>馬</sup>ヤ<sup>馬</sup>コ<sup>馬</sup>チ<sup>馬</sup>ヤ<sup>馬</sup>ト<sup>馬</sup>シ<sup>馬</sup>テ<sup>馬</sup>セ<sup>馬</sup>マ

ドツテ<sup>馬</sup>マ<sup>馬</sup>ダ<sup>馬</sup>は<sup>馬</sup>ツ<sup>馬</sup>テ<sup>馬</sup>ニ<sup>馬</sup>イ<sup>馬</sup>モ<sup>馬</sup>セ<sup>馬</sup>ヌ<sup>馬</sup>ウ<sup>馬</sup>チ<sup>馬</sup>ニ<sup>馬</sup>サ<sup>馬</sup>ハ<sup>馬</sup>ヤ<sup>馬</sup>夜<sup>馬</sup>ガ<sup>馬</sup>ア<sup>馬</sup>ケ<sup>馬</sup>ヌ<sup>馬</sup>ワ<sup>馬</sup>イ  
。秋云、田の句祿を  
ハ、ぬあのみさうり。

は<sup>馬</sup>ぬ<sup>馬</sup>時<sup>馬</sup>ま<sup>馬</sup>さ<sup>馬</sup>の<sup>馬</sup>ま<sup>馬</sup>は<sup>馬</sup>あ<sup>馬</sup>の<sup>馬</sup>ま<sup>馬</sup>夜<sup>馬</sup>系<sup>馬</sup>あ<sup>馬</sup>ま<sup>馬</sup>さ<sup>馬</sup>う<sup>馬</sup>せ

おとよびんごはくはくおぼくは年お一びあをうらな

○一年ニタツタ一夜ツト約束シテオイタ極機ノ心ガサキコエ又一年ニタツタ

一夜クラ井アウノガアウノカソレヤアウト云モノデハナイ

七日は日乃夜もあゝ 凡何也 躬恒

年おふあふとハまねどくおぼくはめよのねぞとるかりりる

○極機ハ毎年おツシヤリハスレモ一年ニタツタ一夜ツクナバおツシヤル

夜ノ救ハサスクナイコトチヤワイ

くおぼくふうつるおぼくちをへ年おを長くうらやぼらせ

○夕チバ祭ニヨヒ手向テオ借ヤニタ糸ノヤウニ長ウ引ンビテコレカラモ年久シク

ハヤウニ急シウ思テ月日ヲタテルコトデアラカ 是ハセタおよめおのが急の急

歌一 新 ちきん

あふひとびんごハ何りどくおぼくはくはくおぼくはくおぼくはくおぼくはく

○今夜ク人ニアウマイ 今夜ハセタチヤニヨツテ 極機ノ久シイ一年ノ間ヲ

待ツノニアヤカツテ コチモ急シウ待ツヤウチ中ニナルコトモアラウホドニ

なぬらぬらの曉およめ 原むゆきの船長

今ハそしとわく時ちえの川 ぐうぐうぬまらお神ぞおぼらぬ家

○サアモウト云テ 別レルトキニハマダ天川ヲ渡リモセヌサキニハヤウ

ニ神ガヒツタリト云テサヌレタ

やううお日くら免る みあのおかみ

くふよりハ今とびんごはくおぼくはくおぼくはくおぼくはくおぼくはく

○き 〇十一

○多ナダ板ハサツ 今日カラシテハ 又今カラ事年ノ七月七日 昨日ヲサ  
イツカトヒタスラ待テ月日ヲタテサツシヤルデアラウト思ハレル

顔々々々

よき人々々々

こはよりのもさるる月の親見とバむぼくく 秋をきふりる

○木ノ枝ノるガラモツテクル月ノ親ヲ見バ 意ウルトハチガウテ スヨヅゴホカス

エマバサテクシキナ物チヤ 意ヲ見バ今カラ惣躰モゴトシキナ秋ガキタワイ

大くの秋らるわくふこがオアさかききものく思ひーこゆと

○世居一同ノ秋ガキタカラシテ 人ハヤウニナイサウナニ オレヒトリガサ 秋ハ

カナシイ物チヤト思ヒシツタ 秋ハオレ独ノ秋デハナイ世居一同ノ秋チヤニ

こがくぬえふる秋ももつらぬくおまけのききばなづぞぬき

○オレニ悲シウ思ハサウタメニホル秋デモナイニ 虫ノ声ヲキケバ 人ヨリサ

キヘ一ツ一番ガケニサ オレハカナシイ

おどろふ秋ぞかきききもみらつうつらひゆくべうばりと思ハ

○<sup>三</sup>あふノダニク色がカハツテ <sup>四</sup>あテイクノハ <sup>五</sup>あふノシイニナルノチヤガ

オツケサウ物ノシイニナル時節ノハジメチヤト思ハ惣躰ノ物ナニツケ

テモ 秋ハサ悲シイ 芥園くわー 秋村くわー

むらりぬるささあ葉ふらうらぬるも秋らるよひハあまのりる

○<sup>一</sup>あノ葉コソ秋ハあデヌレモノナレ ワシガヒトリ子ル床ハ <sup>二</sup>あノ葉デハナ

ケレトモ 秋ニナレバ 葉ハけヤウニ 涙デあノヤウニヌレルワイ

あまのりるささあ葉ふらうらぬるも秋らるよひハあまのりる

つしをさばめをこめど秋の夜がもの思ふはげなりぬり

○イツハ物思ハ又時チヤト云時節ノ差別ハナニ イツデモ物思ハハアルケレド

ソウチニモ秋ノ夜ガサ イツチお思ヒスル頂上チヤワイ

かむるものほがゆんくつまりて秋の夜をさむる

よみらつとふよあゝ みつ祓

ほがハ時坪の内まで梅壺藤壺おどろかすその内坪の内かあ

本も成もしてそは舎は異名にーとおしおむりのつがも雷の

あーとるもーとるまふちまーし 壺字ハ宮中術謂之壺

とらもし器の壺ハ別ありまがわくこおる

かくぐりきーと思ふ壺つづつお祓て何れもじんまへぞに

○コレホドニ面白イアツタラ秋ノ月夜ヲ 寐テニウテムサクト時ス人モ

アウガサウシタ人ニデガサ キコエヌトヤトヨレル 飯杖つづくの

説と後ーいづつお祓てハ祓ていづつふとんねぞー

歌ーいんげ よきびやまらば

ふやちおさーおさちうりーさぶるのねさへんゆる秋のよき月

○サアモサヤカナ月カナ 雲へトッホドるイソラヲツレガツテトデユク雁ノ

歌ニテガヨウとエル 。お秋えむのちかきーハいづくつとほくわりて居る

さよ中と夜をぬまぬし屋がのゆあさうり月さるるんゆ

○夜ハイカウフケタモウトント夜ハニナツタサウナ えレバ居ノナク声ノ

ツエルズットソラノ方へモウ月ガハツタ





○けちイ秋ノ夜ノアケルモシラニアヤウニナク虫ハオレガヤウニアレモ物が悲シイカシラヌ  
歌志くはま  
よみ人ーらむと

秋萩も色づきぬきりぐさむがねぬぐやよるハかきしん

○萩葉モ色ツイテソコ枯カケテクル時良ニナツタバ 物がナレウテ萩止モ子

ラレヌニアノ蝨モ同レヤウニ萩ハ鳴クハソチモオレガヤウニ物がカナシイカ

秋ノ夜もあつそあふきかじしきむしごふむしけむしきば

○まみラゴトニアヤウニ虫ガ難義ガツテ鳴クノヲキケバ 秋ノ夜ハあが

カクベツニききイサウナ

あきのぶきりやつそぬふはやハヤク虫はきかきしん

○人がアステ、ヨリツカイテ ドコモカモキツウアレテ 軒ナドハハレフガハエテ

足苦トウツテ 其人ヲ慕シタテ居ル家テハ 意テナク松虫ノ声カサ 人ヲ待

ト云名ユエカ一入カナレウサエルワイ けむやつそけむらふ

秋の夜もさもほぢひぬやの虫はきかきしん

○け秋ノ野デ モウ日モクレニ及ブ 道モフミヨウタホドニ アノ人ヲ待ト云

名ノ松虫ノ聲ノスル方ヘイテ 宿ヲカツタモノデアラウカイ

あきのせにんやむしけむしきむしけむしけむしけむし

○け秋ノ夜ニアレ人ヲミット云名ノ松虫ノコエガスルワ ソチヤオレヲミツ

ノカト云テ ドレヤ行テオミヒヤサウ

あみぢのあてはりしはるがふむしけむしけむしけむし

○モミチガあテツモツテ 惟モフミカテオタ人モナイコチヲモテ タレヲ



○キツウホウノ雁ハナイタカナ 高ノ色ドル木茂モ一ダロクニお葉モセヌウチニ  
まを履くをみていぢーかどがハ今ぞ唱ふる秋声はくへー  
○まを履ノ中ヘカスミニエテインダるガ ソノ時ノ履ト同シヤウナ秋  
ノ音ノウノ方デ アレ今サ又ナクワ

夜をきみてはもかりが綿あぐねぬ萩乃下葉もさつらひふらと

○夜がまサニ夜ヲカルト云名ノ鳥ノ鳴ニツレテ 藤乃葉モウツウタワイ

此のハわさくのいもくかきれりやその人さうがしと

寛政の時きさのあのみ合のあ 藤乃葉根 鈴屋

秋風ノ声をほふあまてさる船ハ何れか後る鳥ふぞまらば

○アレクアノ喜イ海ノヤウナソラヲ 秋風ニ声ヲさるウ帆ノヤウニアゲテ

船ノヤウニエテ来ルモノハ 鳴テワタルるチヤワイ

かりの鳴る波はまてよめる みはゆ

うたへて思ひつゝねて鳥ぐみのねきさそほり秋乃よぬく

○鳥ノイクツモツラナツテ鳴テワタルヤウニ オハ秋ノ音ノウイノあくヲ

オモヒツケテ毎夜く泣テサアカスワイ

是をみよはあのみ合のあ 志考

山里ノ秋ノ声をよめるふらびーら結ぶの鳴るふはあまらつ

○山里ハイツデモト云ウチニ 秋ガサ 別ニテツラウナギニ思ハルワイ ヨルノ鹿ノ

ナク声テ目ヲサミテハ 夜長ニ何ヤラカヤラト 雑草ナラヲ思ヒツケテサ

ふらびーら結ぶの鳴るふはあまらつ

おくゆくもみぢらぬとわすれぬ麻の葉きく時を秋はうねりき

○秋ハ悲神カナレイ時花チヤガ 秋ノ内デハ又ドウイフ時ガイツチ悲レイ

ソトイハ 秋葉モモウアテニウタ奥山テソノチツタハ秋葉ヲ 麻ガフニワ

ケテアルイテ鳴声ヲキク時ガサ 秋ノ字デハイツチ悲レイ時花チヤ

ぬきくけハ麻叶をきく

歌ししんげ

秋葉りくくむじまをれを足川のふきくさうみ麻の形くらむ

○秋ノ葉モモウ枯テイクヲ足テ時花ノ花ガナレサニ けヤウニウナレヲナゲテ

居ルノニ ドウ云フデアノヤウニ山ノ下ニテヒクホド麻ガ鳴コトヤラアノ

麻ガウヲキケバイヨク 悲レドウモタラニニ きれびくさうふのこ

秋葉をきくくみふきく時を麻の葉を中をんじしておとのさやらさ

○聖ノ秋ノ中ヲフミアラレテオレセテレガラミニレテ鳴テアルク麻ノ目ハ足エイ

デアノア声ノサヤカニヨウウエルトワイ

是冬と秋のち合ふよめる ちづらぬとゆきの秋花

わきまに花鳴ふるさうの砂のをのへり麻をいすや形くらむ

○アレ秋ノ花ガサイタワイ 山ノ麻ガモウナクデアラウカ

むくくしんじを伝ふる人の秋の地をわひくおがら

しんじいでおよめる みつね

秋葉のゆきふはま麻葉足進バもはむきくさう秋のざりらむ

○秋ノ去年ノ古枝ヘアレアトホリ又花ノサイタラニレバ 葉本デモ

二ハカタノクヲバ忘レハニセヌワイ スレヤソコモトモ 中絶ハ枝レタケレド  
先事ハコイニ枝レタフハオワスレハナサレイ

歌あゝど

よそ人へおど

秋らぎれ下葉色はぐ今よりやむり人のつゆがふま

○秋ノ下葉ガソロク枯カケテキタア、いま修くト秋ハ長ウオラウレ モウコレカラ

又オレガヤウチ独ズミノ者ハ子ラレヌデアラウカイ 千秋ふけちニのりかきまれ

鳴らうあかりの海やあらつゝむ物思ふるぞは秋乃上は露

○アレテ、い照レイコチノをノアノ秋ノ冬、いあガキツウレゲウオイタガソラヲ

ワタル雁モオレガヤウニカナレイ<sup>カ</sup>ガアルカレテ い泣テイク スレヤアノ雁ノナク

海ガオチタノカレラヌアノ秋ノあハ

秋の露あけりぬくむとそれをもなよりとむ人ハ枝あぐんよ

○秋ノ露ガキラクトヒテアリヌサニ玉ニヒテツナガウト思フテトツタレハ

チキニ消タエイワソチナラヌヤウト思フ人ハ いトスニヤハリ枝ニアルニテ思ヨサ

あゝ人のいゝ此あはなうみりぞのいゝなりと

をりて思バおちぞいぬべき秋葉の枝もいゝおちるあはな

○秋ノ花ノエタモヒワクトタムホドオイタアノあガキツウレヌサナガ

アレヲ折テ取テ思ヤウトシタナラ サダメテ落テニウデサアラウ

あゝがさちゝゝあ小池のあおめあきてをゆくはあはな

○今秋妹ガトコロイカウト思フ野道ハ秋ノ花ガ落テサゾあモフカイ

デアアラウガヨイウヌヒテイカウゾ 秋ガフテあハレゲクトモ いあはな

つひに...  
。ふ秋云ぬきてまのまハ助辞あつ  
らふも...

を真みこねぬのま命にうる 文を...  
。ふ秋云ぬきてまのまハ助辞あつ  
らふも...

秋のゆふおくまゝおわらぬきやほくぬきかゝるもね糸まじり

○秋ノ野ノ家ハ玉チヤカレテ蛛ノ糸スガヘツナイテカケタ

歌しは波 僧心遍昭

名ふれでくおまゝいりぞおねむいれおちぬきと人よかゝるね

○女帝花ト云名ガヨサニ 千ヨツト馬カラオリテ足タバカリチヤゾ カナラズ

オレガ女ニオチタト人ニ云テハナイゾヨ 。千秋云ぬきてまのまハ助辞あつ  
らふも...

まゝに... 。千秋云ぬきてまのまハ助辞あつ  
らふも...

まゝに... 打すりぬ

僧心遍昭がむやふねくへすかりなる時ふまそふめてまみ

あへー涙えてよめ ぬるねつみち

まゝねへー... 思へ

○アノ女はゆバア、イッラチ女チヤト思フテオレヨソニエテサをリとテ

イクコハ男山ナレバ 男ノ中ニシツテ居ル女チヤト思フニヨツテサ

是名みこねぬのま命のうゝ とうゆきのねは

秋のゆふにやどりハまへー 女はまゝぬきつまゝとねあゝねくふ

○トニラテ秋ノ世ニトニルガヨイ 女帝ハガアツテ女ト云名ガムツニサニ

五 ヨソテ寐ルヤウデハナイワサテ 二のむねをりどをまつくべー 録材

打すりのふとまきえび... 。ふ秋云ぬきてまのまハ助辞あつ  
らふも...







ふりつりて何うしてむきまきへおゆる野べふ採まきおを

○名々のチ名くノ花ヲ ハイツハイエズニナゼニけヤウニカヘルヤラ 女良む

ノ多クアル也デコヨヒハ子ヤウデアツタモノヲ 女上名チバヨイより取チヤニ

是負みよは家のあふよめり せうゆきけ 節辰

たふくのまきとぬぎかきへむむらぬる秋てふゆきべをふやえは

○けつぢがカハ 二カタ何人ノ着テヌキカケテオイタ袴ゾ 毎年ノ秋ニナ

ふけ髪ヘニヲニホハス 今ニけヤウニニホウハナニテモコレハナミタイニイノ人ノ

袴デハアルイヨクくレキくノ人ノ袴デ 香ガヨウシテアルユエデアラウ

若袴をよみて人よきくろく けくゆき

ふりせし人のくくろくゆらばりぬきくろく袴がにふくはひつ

○け若袴 ハイツヤけガテオ上リナセヌも極ノ形ニオイテぬゆリナツタ袴

デガルカ 今ニワエレガタイ香ガニホテサ せ極ノヲオナツカレウぬズル

ぬらむかきけよえり ころき

ぬし、らぬらうそあやへも秋のせふしむがぬきりきへぬらむらぬらむ

○けつぢがカハ け秋ノ袴へ名レガヌイデ掛テオイタ袴ゾニア 三ノヒレヌ

香ガサニホウテアル

ぬらむかきけよえり ころき

今よりハうゑてふふえど花きけはふふは秋をぬらむらぬらむ

○スキハトコニモタクサニアル物チヤガ ソレヤドウモセウコトガナイチヤガ

今カラセメテハコチノをニナリトモ極テハヌヤウニセウゾ アノヤウニ極ノ







よきついでふとあり 藤糸かたむし

日どえはらたつこのを秋うつたふはぬを秋乃をどめわたり地

○日レ一本ノ木ノ枝チヤニぬノ方ハサレタ枝ガトリ分テアノヤウニヌノカハツ  
タラニレバ ナレホド西ガサ 秋ノハジメチヤソイノ

いーんーゆーできる時おとほふらぬ葉はさく

よき縁 けいれい

秋風如吹ふー日よとあともふみゆら梢と色づきあふり

○秋ノ夕チソメ夕日カラレテ風ノ音モカハツテキタガ 今日ニレバ山ノ木大モソロ  
ソロ色ガツイテキタソイ  
。秋云此譯 かくて上句をんはべー 梢もといふて  
風の音もつらまをこを思ひせまりのちり。

きんぎょはあはさふらふら ちりゆれのねん

ふたのちのちいむし川をいふし秋乃このをいふらふら

○あつ色ハ皆同レツツ白イ色チヤニ ドウレテ秋ノ木ノ葉ヲアノヤウニイロ  
イロノ色ニソメルコヤラ  
。秋云此をねんはりのをねんあて  
むしりあつりのをいふら

壬生志考

秋の葉はあをばあとおきわがく層乃後やあべをむしむ

○秋ノ葉ノあヲバ白イあテソノマレテオイト 別ニ層ノナク後テ  
アノ葉ノあヲバソメルカレラヌ

歌ーあをば しみむとあつ

秋の葉はあをばあとおきわがく層乃後やあべをむしむ

○秋ノあハタハ白イ物チヤトガリヒツテ層ガサウテハナイサウチ 色くチカウテオクサ





宛あは時きくは花をよゆせ給うま

オヨマセナサレタ

一 ちかかたはきのうへみてみる葉ハ何れも星もぞあやまらぬらる

○カヤウニ禁中デ見ニスル菊ノ花ハ 雪ノ文デゴザリニスニヨツテ 天ノ

星チヤトサトリチガヘラニスルワイ

はあハマまが殿上ゆるさきざるときり時りきりし

らきてはくうまつるとん

もなみこはあのみ会の秋 紀友則

まあまぐりそりてかぐりて葉のむおいとぬ秋り久しあさぐ

○葉ノあハあ余ヲ長ウスル物チヤトキケバ イツモデモ年ノヨラヌ秋ヲ久

シウキ子テ長生ヲスルヤウニ 此葉ノむヲあモソノマデ折テ頭サウ

定あは時きこのまのま会あ 大江のま里

うきし時花すらぞおあー葉うらうあ秋ああり母もらやんし

○まウエタ時ニ早ウ花ノサク秋ニミタイトマチドホニ思フタ葉ガアア

成盛かるとテモウ色ノカハツテシモウ時節ニナツテハヤウニナツタノヲ足ヤウトハ

思フタカイ ちかあは時きこのまのま会あ

あさぐは時きこのまのま会あ

花うきし時きこのまのま会あ

葉極くうらうけくはる ときあは時き

秋風乃吹上れしきりてきりてハ花うらうぬのほのよするか





秋のきくみちやうにハクゴクしては花よりされとてしぬみちを

○兼ノ花ヲ カウ咲テアルキハおるレデハ カミテアズウツ アノ花ヨリサ

キヘ死ナウモシレヌ身ガヤモノヲ アソビイデハ

白菊は花をよめる 元はぬらつね

いあてふきくづやきむゆきお乃おきまをりきるあきぎくのき

○アノウニ<sup>ニ</sup>おおガオイテ 花ヤラおヤラシレヌヤウニニガウテ見エル 白イ兼ノ花ハ

タイガイスイリヤウテ<sup>ニ</sup>ラバ折<sup>レ</sup>モセウカ ナカク足ふるハ<sup>レ</sup>デハナイ

きんぎょは秋の会のおう とうきびとさくさく

つゆつる秋のきくきば一もせふゆきむおちお花とてそら

○ハシメホドハトト格別ニ色ノカハツタアノ兼ノ花ハ 同レ本ノ花トハ見エヌ

一年の内ニニ交サイタ花ヤトサスルハ 秋下句迄(一) ちやよるし。

仁和ふきくづ花きくき時イ<sup>レ</sup>あきく<sup>レ</sup>なれ

おあせく<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>なり 平らごゆん

秋をおきて時<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>終<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>む<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>色<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>む

○キクノ花ハウロイマ<sup>ニ</sup>テカラ又カヤウニ始<sup>メ</sup>ヨリハ色が<sup>ニ</sup>サリ<sup>ニ</sup>スバ 秋ノ一サ

カリ<sup>ハ</sup>ガリ<sup>デ</sup>ハゴザリ<sup>ニ</sup>セヌ 秋<sup>カ</sup>ズ<sup>テ</sup>カラ又<sup>ニ</sup>イチド<sup>盛</sup>ノ時<sup>チ</sup>ガサ<sup>チ</sup>チ

リマス 恐レナガラ<sup>下</sup>ノ序<sup>モ</sup>モ<sup>レ</sup>兼<sup>ノ</sup>む<sup>ト</sup>ホリ<sup>ト</sup>を<sup>レ</sup>な<sup>リ</sup>マス

人のぬかりきくきく花をうつ<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>急<sup>ク</sup>う<sup>レ</sup>急<sup>ク</sup>う<sup>レ</sup>急<sup>ク</sup>

しんあ ぬらぬら

咲を先<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>ぎ<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>ば<sup>レ</sup>葉<sup>ノ</sup>色<sup>を</sup>ま<sup>よ</sup>う<sup>と</sup>う<sup>ら</sup>ひ<sup>か</sup>ら<sup>終</sup>

○は葉ノ花ハ始ニ咲タヤドノヤドガ替ツテウツタレバ 取ノウツクタガリカ

花ノ為マデガサ アノヤウニウツテカツタワイ

歌一 花びと よみ人ー花びと

佐保山乃ちくそのお葉ちりぬべとよるま見よくとくは月影

○アノサホ山ノ柞ノ木ノモミチガオツテ花ウヤウニ見エルニヨツテ 眞カレテナシニ

兼モ人ニ見ヨト云テ アノヤウニ月ガアカイ

みやづへ久ーくはくうまうで山里りくまりゆ

歌一 およめと 藤原 園雄

おく山乃ちくそくたりみづらくこぬべとくは光見よとめちうて

○はヤウニこい岩ノ葉北ノヤウニ立テアル陰ニアル奥山ノお葉ハ 日ノ光ヲ

見ル時モナレニ花テニウテアラウト見レガ アノクチヲケイオレガ身ノウ

ヘモテウドけお葉ト回レトギヤ

歌一 くらげ よみ人ーくらげ

立田川もみづらみづらして花がきりゆらば縁中や 花をす

○立田川ハお葉ガチリミカシテ今ウツテ花ハ縁ニルヤウスニ思ハル ソレデハ

今ほツタナス アツタラ縁ガニ中カラキルテアラウカイ

けさのちる人なうらみうきおきゆきことまじやけ

くさのりーくらお葉がきりおびりみむら花のおめあし

○は川ニお葉ガナガレ 神ノヒノ山ニお葉ガニテ風ガフクササチ

おめくさお風乃ちくそくはくひせくおるべー

又もわきう川もみぢ葉流る

此も不狂人九奇

きくハんてととものむいんみぢ葉流るきねあしを心あつての

○お葉ハモウ葉テシムウガ今カラモ 葉々お葉ノ意ニハ 叶後葉

ヲナリモ 足テ舞せウニ ソノヤウニヨソへフキチラシテヤルナイ コノ山オロシ

ノ風ヨ 子秋云 げりみぢ葉のちりまきける葉葉をいつふし 足てもといやう  
ておすよりせそその葉葉とてもし じりどあられし

秋風あわへどちりぬるもみぢをゆゆくへうとせぬ ぬぞかあき

○秋凡ニエコタズニお葉ノ アチヤコチヤ葉テイテドコモイク方ノ定

マヌヤウニ オレが身モお末ノドウナルフヤラシレヌカサカナシイ

秋もきぬお葉ハるふゆりとききぬぞふとあてろふ人きね

○物ガナシイ時節ニハナウタシ お葉ハをへチテヒウ ソノ葉リテイタ葉

葉ヲフミカテタシモるまテクル人ハナシ サテモく 何モカモソロウテサビシイ

コトカナ 三つのおりふ心をほくべし 餘材お神をを秋の葉ハ

おぬといつふいひとじ 秋ハおがねしき時さくいつふいひ

お葉あわし

ゆきお葉をしゆくあやらとむむらみぢ葉流るりからしき そこと見  
あがく

○アノ葉へイルるハ アノヤウニお葉ガチリテイテ タモ人ノシラヌヤウニ

フミカテコヌヤウニト 葉シテアル道チヤニ サウトルナガラ ソノフミカテ

今サラも葉ラベキフカサウトルナガラフミカテは葉ハウヤウハナイ

秋の月とてやうふてうせう家をおつるお葉あわくを心見よとら

○月ノアノヤウニ山ヲサヤカニテラスノハ オチルお葉ノ数ハイウツチヤト



○はま田川のお葉がヅト下へながレテイト上ル湊ノカサハツカ  
イナ色ノヨイ辰ガタツデアラウカ

なかりむらねね

ちりやぶ福神代もまきうぶま田川かろくせねあふろく後海とは

○はま田川へシゲウお葉ノ流レルトコロアバ トニトお葉子ハおベホリト見

エルワイ サテく奇妙ナカチ 神代ニハサハノキメウチハツカアツタ

チヤガ はヤウニ川ノあヲおベノク、リゾメニタト云ハ 神代モイツカ

ウキカヌハチヤ お秋云々くどぞめハ今式あが  
かしてして、續續といふ是也。

をえみとねねのあ合のあ あゆねのねね

コダまつハかハもまハきハくハせハびハくハぬハふハあハねハこのをねちハとハまハぐハあハ

○はくらぶ山ノおドモノコノハノ中チリニガウノデ 今トホツテオ  
夕方モドチカラキタヤラシレヌ

しゆのみ

神ねびハ乃みむ後のら秋ゆけバ海くちきるらちハをハれ

○今秋ノコロは神ナビノミムロノ山ヲトホバ お葉ガチリカレテ

縁ヲ着ルコ、ロモチガサスルワイ お秋云々ちの澤あまの俗候、  
け河さきかよろしきおるべし。

おらハくハもみハぐハきハくハひハくハまハめハちハりハるハねハあハ

おしハえハ海 あろく

えん人ハもねハてハあハぬハあハくハあハらハおハ葉ハハハよハらハあハきハおハりハるハと

○ナニデモセシナイハヲ夜ハヲ縁ハト云ハチヤ えん人モナレハヤウニムダニ散テシ

ミウタ奥山ノお葉ハナホ見テ移ルヤウデモ一ヨトニ夜ハ縁チヤワイ

秋のうゝ

かよとけ五

之田娘しむじる神乃わさばる秋乃お葉おととあまらめ

○之田娘の神様ぢヤガソレデモ又は手向ナサル神様ガアレヤラコソらめは自身

ノ依添サウタお葉ガアレトト向ノ麻ヲチラスヤウニチリニス

おれとつふさうはうらみゆる時ゆみぢをえんく

よめらお

ほくあき

秋のふお葉おととあまらめ秋乃お葉おととあまらめ

○秋ノ山デハアレアトホリニお葉ノキルヤウスガテウド様ノ道タリ神ノへ

麻ヲチラテ手向テユクヤウニテニヨツテ佳デ居ルコチデガサトウラ様ノコチガスル

神あひ山をさしてしつと川をゆりきり時りお葉

のねが純りゆをよめ

きよらけふうやぬほ

神あひの心をさだゆく秋あねを之田川よぞぬさるしむじる

○コチモ今神志山ヲミテキテ立田川ヲ後ガ善テテ秋モソトホリテ神ノガ

ル神志山ノお葉ハモウ善テソハニテ西ヘユテバアレアヤウニお葉ノ又サラバ立田

川ヘサタメテヌ神あひ山ハ心機おし川お立田川ハおととあまらめ神志山上に

そとふ心海ノつらうしげり別お考りお秋ノ原のひ考へお縁るお神ノお葉お

おおお時きさのあおあ合のあ 後さああき風

お浪り秋のこのおれうりへる波あるおあがさる船りさぞ足像

○浪ノ文ハお葉ノチツテウイテアレハ横師ノ流シタ船デハナイカトサ足エル

三田川のほろりおとよめ 越上、北門

もみぢら葉は素がれざりせむ三田川あつ秋をばくおれうきうほし

○木葉ノ青イハ色ノカハルテ秋カシレガ 水青イハ色カラヌ物ナバ 秋カシレヌニ

今三田川ノ水ヲ見レバ お葉ガ腐レルテ秋キヤト云フガシレタ モシヤウニお葉ノチ

ガレルガチイナラバ 水ノ秋ヲバドウレテ誰ガシラウゾ シルモノハアルニイ

あつ秋ふごえよとある ちるみぢらほろりき

ふほろり風おれうけくもさくみぢら流きもつへぬもろりおれりらる

○山川へアレ風ガモテキテシカラミヲカケタト見ユルハ エカレモセズニトツテアル

お葉キヤウイ アレハ風ガフクデアリシテウお葉ガチツテセキカケク流レテクルニ

ヨツテサラクトトトへエ流テハイカズニアノトホリニシカラミノヤウニヨトムヤ

池のわろりにてお葉のちるとある みつね

風お葉バあつるりみぢら葉あほほとちるおれさへ庭ふえしぢく

○風ガフクバチツソノロクお葉ガチリカケタガ け池あがキヨサニマダチラズ

ニ枝ニアルお葉ノ糸ニテガ底へヨウウツテ ハヤ大分チツタヤウニ見ユル

亭子院の依屏風の縁より川よりうきとさる人乃

あつ秋あつる本は本にるゆもえくくもてるとよ

せなせしむらとつづく海川のまき

もろりあつりてをほくむりみぢらくぬとゆらもろりハまらうほし

○シバラク立上ツテアルお葉ヲ見テカラハ川ハほらウ ぬがフバらガコレテ

川ガ腐ラレヌヤガ お葉ハ毎ノハウチニホツタトモ あハミレハスマイホトニ



きぢみぢのちあま  
くぢみぢ

山田も秋乃かりやあおく 露さいあおをまの海 かりきつを

○秋ノコロ山ノ田ノ番ヲスルけ小倉へけヤウニ高ノオイタハ 稲負せまがけ

コハオテレゲウ唱ケバ ソノナミダヂヤワイコレハ

きぢみぢ  
よみ人ーらぢぢ

ほふもあぬ山田をりあくとぬら衣いさむけあふぬぬ日ハあし

○二ダ穂モテヌ山ノ田ヲトウカラ番ヲスルトテ 毎日く 稲ノ葉ノあデ

キルモノ、ヌス日ト云ハナイ 百姓ト云モノハア、ナギナモノヂヤ けヤウ

ナヤウスヲ上ニハハぬあアルイガ 夜衣をいぢーに者ぢきりぬし

ふ秋云こも君さる人々あふゆくハ海さちて 味ひあふべきさしトさして  
まき人のほんぐさもあふり又まき人の下が下あふぬさしゆくさるーまきさへまきハあふ

かきる田ふあふもむつらぢあふぬハ昔今さるふらさささぬさる

○刈テニウタ田 又アトハエタヒツチノ穂ノデヌノハ 時長モウ秋が今タニ 世中ヲ

モウアキテタニハ今サヲ穂ヲダサウヤウナイトマフテアノカイ あ秋云今さる中さるあ海を  
三のの共さるさるあ海を

わんりー 傍あ遍 昭くーあけらるふまのさるさるあふ

よめんる  
ません 信師

のみぢら葉を神イーににさしてりあむあハ限とえむ人のと見え

○けあ葉ヲバ神ヘコキオロヒテ入テ持テけ山ヲ出テイニデミヤゲニセウ 人ハ定メ

テ秋ハモウハヤニミイヂヤトマテ居ルデアラウガサウマフテ居ル人ノタメニサ

寛平の湯あふれさーあてやうささあわせさささささ

ま田川もみぢらあああささささささささささささ

きづいをよみきき。 おきこらせ

みやうららとあはれ。あはれをえてぞ秋のうららと思ひしをぬる

○モシヤ 深山ナドニハニダ秋ガ訪ッテアルデモアラウカト思フタガ けやウニ  
深山カラ 露タの葉ノ履テクルもの色ヲ見レバサ サテハモウイヨク秋  
ハニヒニナツタト思ヒシツタ

秋乃も川をあはれを三田河おあひやうとよめ

はくゆれ

きづいふもみぢら葉船がもくく川みまや秋のあかり船もむ  
○毎年く 秋ノお葉ヲ 伐ヤ船ノヤウニ流シテヤル三田川ハ 川下ノ  
湊ガ秋ノ上ル船デアラウカイ ソレナラ湊へる子テイテ秋ニアヒタイ

モノヂヤ クテユクハノコリオホイ秋ヂヤニ

船がづきのはごもりは日大井あてしよある

夕月夜をくはれ心し 照る麻乃 船がづちあや秋のくもむ

○一 ケフハ九月晦日デモウ日モクシカタニナツタガ アレアノ小倉山デ鹿ノ  
ナク長イ声ノキレヌウチニ ハヤ秋ハクシテニウテアラウカ

何ドはごのりは日あ。 みつ絲

きづいふもみぢら葉船がもくく川みまや秋のあかり船もむ

○秋ハモウお葉ノクルヲ道ノ那ノ麻ニシテは向テ 猿立シテイニデニウ  
タワイ サテモクノコリオホイノカチ 道ヲニツタチラ跡ヲラる子テナリ尾ユカウ

古今和歌集卷第之巻鏡

をり

歌うら

よも人しんげ

もつとがの海ありかくかみさ日とを他のあまきよてぬきあし

○立田川へお葉ノ敷テ流レルトコロ見レバ 時毎ノ系ノヤウチ毎ヲ 堅

横ノ系ニシテ 機へカケテ 繰ヲ織ルト見エル

あはれをりてよめる

源宗干 歌

山里ハ冬ぞらびしとまきりきり人わも弟もかどぬと思へむ

○山里ハイツモサビレガ 冬ハサツニセシサガシタロイ 人又コヲ人目ガカ

ルト云ヤガ 今ニテハ冬ノ見エタ人目モカレル 弟モ枯タニヨツテサ

かどぬと思へむとまきりきり人わも弟もかどぬと思へむ

歌しんげ

よも人しんげ

ちかき月おむりし馬も道バ 親見しあぞまがしありし家

○昨夜ノソノ月ガキツウサエタニヨツテ ソノ親ノ見エタ水ガサ ケ弁ハアレアヤウ

ニツバニニコホツタロイ

ゆ杖云三の句 菖蒲花を葉 朗詠をいふ  
きりしとらふそのあまきりきり

夕はば衣もはむししみう 聖女よのふとをゆきし

○はゴロハ ヲラカニシレバ イカウをイマツ着ニヤナラヌ コレハモウ吉野

山ハ名ガツタサウナ

いよらうとハはぎてぬらむむらさき花の落おほきとあまき

○コレカラハツヱイテほくフレカシ コチノ庭ノス、キラオシナビカシテツモツ  
タアリ雪ノケレキキツウオモシロイ

ゆきをちかぢいぞとまぬけし何いなきは心乃勝つせきやう。

○此方ガフルヤウチヤガフルウチニハヤ片一カカラサキエルサウチ ツラサドケト足

エテアリ山カラ流レオチル川ノあがミテ 吾ガアシヨウウチツタワ

此川にもみぢいあけがもあけ心乃雪とあけあけ今ほき。

○け川へお葉が流ルル コレバ流レテコトガ 今アノウチ流レテキタハ 川上ノ奥山

ノ吾ドケテ水ガサレサウチ ソレ川上ニヨドテカツタ本葉ガ今流レテクルヤ

あけをよけいしちうくれをむと目もみ君ゆきぬり心あけ

○け吉野ノ里ハ 山ガ近イニヨツテ ケガチ一日モ吾ノフラヌ日ト云ハナイ

いぬがハ君ゆりききしてきも好しきふてらん ねんば

○コチノ庭ハ イチメニ吾ガツモツタマ、デ道モナイ フミカテるミテクル人が

ナイヂヤニヨツテサ ツテクル人がアラウナラセメテるハレテアラウニ

きのあまてらる 紀男

君ゆきバきくわいときも君も本もまふあききぬ花ぞさ紀らる

○我がレデニダメモテヌまモオモ 君ガフレバ 妻ニハサタナレノ花ガサイタワ

イ ソウタイ花ハ喜ニナツテ咲クモノチヤニ

まがけいこいふてらる きのあまてらる

白雪乃さうらもあけあけあききばいもわあもさうあききあき

○君ガドコト云フナレニタヒラメニツモツタレバ 本デハナウテ花ノサクマイ出石

へモサ花が咲タト見エル

千載花の心は花の名をうたへば  
花の名をうたへば

なつた糸にまかたりらるるれいりやどれりきるるるる

よそよそ

坂上あきのるる

みづ野は山乃きりきりきりしるるきりきりきりきりきり

○今夜は昔の山ノ君がイカウツモルサウナ ソレはへにニテガイヤウニ

かこくサムサガササルチヤ

寛政の時きりきりきりきりきりきりきりきりきり

浦ちかくゆりくるるきりきりきりきりきりきりきりきり

○カノ奥州ノ末ノ松山ト云取ハ右方ニ浪モコエナニトヨニテアツテ名ノ事

イコトチヤガ 今カウ海色近イ取ヘ昔ノフツテクルケシキハ 白イ浪ガニコ

一ニソノ末ノ松山ヲサコエルノカト見エル 餘材はゆきを末の松のつる

この浦と見ゆるおやきりきりきりきりきりきりきりきり

壬午の巻

みづ野は山乃きりきりきりきりきりきりきりきりきり

○昔せ山へ係イ君ヲフミ分テコモツタ人が 後一向ニオトツモナイガ

事かほくフカウツツテ使リモシラヌカ イヨクキキキナカ きりきり

ヨイトコロチバモシララハナトハセヌカ アシララハワイ

おきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

○昔ノフツテほくフカウツツモツタ山里ハ サツヤをウハラウレ サビレウハア

ラウレ サウ云取テハ 住テ居ル人ニデガ心ノキエイルヤウニ思フテカキアラウ

若ハシイニハ消ルモノチヤガソノ若ノヤウニサ心ニテガ

若のふらげんてよめる 九何肉うつ孫

若ゆりて人も遊びぬきおきや跡えうとねくおもひまゝあしむ

○若フリニカウニテ居ル心ハトハバ けヤウニ若ガフツテ人トホリモタエテ

足跡モナウツテソトニ跡モシヌヤウニ消テニウ道ノヤウチ抱チヤヤラ

カウニテ居ル心ガキエルヤウナ 子秋云ニの句のなまやうはむのらんとのあ  
つひ此譯をよく味ひてあるべし

若れふらげんてよめる 若れぬるやぶ

若れぐくもよりりる乃ちるるの心をわきこるもあやういひ

○二ダウナガラ定カラアノヤウニ花ノ後テクルハ アノヤウノアチラハモウ若チヤ

カレラヌ

若れあふありかゝるるもさるるはらるる

つゆき

若れぐくもよりりる乃ちるるの心をわきこるもあやういひ

○今ハ若ガレテ二ダメモテヌアノ本ナレバ 必ヒガケモノナイニ 枝ノアヒダカラ

花ノチルトスエルホドニサ 若ガフルワイ

やまをばあしめし 悔うれはるる 時ふ若れふらげんてよめる

えんてよめる 坂上ころもりのり

若れぐくもよりりる乃ちるるの心をわきこるもあやういひ

○カウ若ノクワラリットアチタ時ニ見レバ テウドも若ノ月ノ跡ツタテト見

エルホドニサ若ノ里ノ若ガフツタ 若れ云はれぐくもよりりる乃ちるるの心をわきこるもあやういひ  
中意とおもひのうらわがしるるのめはれはるる

歌一はだ

よみ人しらす

春ぬぐへり又もゆりあけ春度ふらるるばみ春も続おるもえぬ

○け雪ハニダキエ又ウハモ又ツイテフリカサナレ オツケ春ガキテ春ノタツ

時ハニナツタナラニニソソフリモセウケレ 春ハ見ラレニイホトニ

梅の花ももろと見しほどおさか<sup>ほ</sup>はあぬきも春はるるごとくゆりあば

○三 あふぎ 春ガオシナメテドモカモソツタレバ 梅ノ花ガ梅ノ花トモ見

エ又 同シ白サヂヤニヨツテ

此うハ何人のいもかきれ春人あゆぐうとゆり

梅のちふ春はるるごとくよめる 小野しらすむくの船

花の色ハ春あゆりつとて見しほど春もあふはへ人のあふる

○花ノ 色ハ春ニミツツテ ソレトカレテ見エ<sup>五</sup>人ガ梅ノ花ガヤトニルヤウニ

セメテ春自ナリトモ <sup>いふ</sup>ハツキリトニルヤウニホハ

春はるるの梅あをむる きのつらゆり

梅のちふゆりあゆる春あまぐいさばいゆりあゆり <sup>ほ</sup>ふてをうらふ

○梅の花ハ色ハ白ウテ春ニガウガ モシ春マデガ 色ノヤウニツモツタ春ニ

マカウナラバ 誰ガ春ト梅の花トヲヨウベツクニ足カテ折ウゾイ タレモエ見

ふみハスミイ 春ガニガ子バコソ

春はあゆりつとて見しほど 紀<sup>二</sup>のつら

春あゆりつとて見しほど 紀<sup>二</sup>のつら

○春ガフレバ 何ノ春モミナ花ノサイタヤウナワイ ドレヲ梅ガヤト見カテ





川ノ早ウ流シテ夕ヤミノア、サテク早ウ夕月日チヤワイ

あなれとおらせしきしめりよましくなれる

きつりゆき

ゆくそしきしきとまうゆきと鏡入る新へふるまうとあへん

○ 年ノツモルニシタカウテ 汝カニ鏡テ入ル新ニテガツリガま白ニツテ面ハ

シワガヨツテハヤウニオイクレテイクト思ハバ サテク善テユク年ガマアラシウ

思ハルコカナ

よきかゝと二のまをけをなる

